

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成26年9月29日 NO.20

悲しい出来事が起こらないように

神戸市長田区で、小学校1年生の女兒が誘拐殺害されるという悲しい出来事が報道されています。罪もない小さな子どもの命を奪った犯人に対し、多くの人が強い憤りを感じている事と思います。ここ数年、児童が連れ去られたり、誘拐されたりした事件は、年間90件を超しているそうです。全国的に学校での被害防止教育が推進され、通学路を見守る地域ボランティアの方々の献身的な活動が増えてきていても、被害が高まり減少しないという現実があります。

本校では、地域の方々のご努力により『見守り会』が発足し、児童が安心して登校できるように配慮頂き、日々感謝の思いでいっぱいです。子どもの安全を守ることは、地域・町の安全にも通じ、今後も活動が継続して行ってほしいと願っています。学校と地域の関わりが増し、常に子どもを見守ってくれる意識が定着してきたことは、とても嬉しい限りです。しかし、安心してばかりはいられません。児童の下校時や、放課後自宅に戻ってから外出する時にも危険はあります。学校では、身近な場所にも危険が潜んでいることを意識づける指導もしています。日常の生活指導はもちろん、6年生が作成する地域安全マップづくりもその一つです。今後も学校・地域・保護者が、子ども達の安全のためにできる限りの事をやり続けるしかないと思っております。

ある新聞記事に、『よい声かけ』が事件を未然に防ぐこともあると掲載されていました。また、大人が子どもに声をかけると「不審者」として扱われるケースが増えていますが、子ども達と地域の信頼できる大人たちが互いに顔を覚えられよう場をもっと増やすべきだとも報じられていました。

そこで、9月29日の全校朝会に、毎朝、献身的に辻々に立って頂いている『見守り会』の方々にたくさんあいさつして、顔を覚えてもらうことが自分の身の安全につながるということを話しました。会った人同士であいさつできるような関係を地域につくることが、児童や地域・町の安全に効果的であることは間違いありません。学校ではこの機会に、再度あいさつ運動を推進していくことにしました。ご家庭でも、安全な生活はもちろん、あいさつについても話題にして頂けたらと願っております。以下、朝会でのあいさつについてのお話を記します。

9月29日朝会：安全に気をつけよう！みんなであいさつしよう！

毎朝、校門に立って子ども達に「おはようございます」のあいさつをしています。元気な子どもの声というのはとても気持ちいいもので、その日の元気を充電してもらっている気分になります。笑顔でちょこんと頭を下げきちんとあいさつできる子は、その朝もしっかりと朝ごはんを食べて、家を出る時も「行ってきます！」とおうちの人に言うことができているのでしょう。また反対に、こちらから声をかけても下を向いたままの子どももいます。おうちを出る前に怒られたり、けんかをしたのかもしれない。中には校長先生が声をかけても、まったく反応無しという子どももいることには残念な思いがします。

あいさつについて、3つの約束をつくりました。1つ目は、「じぶんからあいさつ」です。あいさつはされるものではなく、するものだと思います。先にあいさつしたほうが気持ちいいものです。2つ目は、「目を見てあいさつ」です。目は心の表れでもあり、相手を思う心はとても大切なことだと思います。一瞬の目に、その人の温かな人柄や相手を思いやる気持ちが表れます。3つ目は、「ちょこんとあいさつ」です。ふんぞり返ってあいさつする人はいないと思いますが、ちょこんと軽く頭を下げる行為に、相手を尊敬する気持ちが入っていると思います。以上の3つを子ども達にしっかりと指導してまいります。ご家庭でもご協力よろしくお願いたします。

ちょ
こんと
あい
さつ

目
を
見
て
あい
さつ

じ
ぶ
ん
か
ら
あい
さつ